ミクセル CB250MK10 スピーカーキット
組立説明書





完成写真（前側）円筒部にブラック塗装を施しています。



完成写真（後側）円筒部にブラック塗装を施しています。

ミクセル CB250NK10 は MarkAudio の 13cm フルレンジ Alpair10 の取り付けが可能なスピーカーキットです。Alpair10 の高品位でクリアな音質と CB スピーカーキットのユニークな構造が相まって、優れた音像再現と躍動感のある音楽再生を可能にしています。

■完成時仕様

型式：リアポートバスレス型
内容積：13.2 リットル
バスレフポート径：40mm×2
寸法：幅 278mm（フット部 243mm）奥行約 365mm　高さ約 405mm

■組立に必要な工具

木工用ボンド、かなづち、スパナ（ペンチ等で代用可能）、濡れた雑巾等（はみ出た木工用ボンドのふき取り用）

■塗装に必要な物

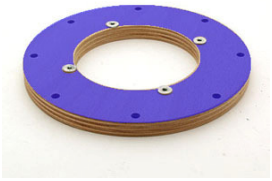
塗料、筆、サンドペーパー

■塗装について

ブナ合板は木目も大変美しいものですので、塗装なしで組み立てるのも良いと思います。塗装なしでも大変良い音質を得る事が可能です。塗装を行っていただくとさらにクリアな音質になります。
円筒部分は外観的にも塗装をしていただいた方が良いと思います。一番手軽に行う方法は水性塗料を用いる方法です。筆ムラも出にくいのできれいに仕上がります。スプレーラッカーを使用するときれいに仕上がります。その場合は換気と火気には十分ご注意ください。

ブナ合板の部品に塗装を行う場合のご注意

以下の様な接合面には塗装をしないようにしてください。両面に塗装すると塗料が密着して、はずした時に塗装面が剥がれる事があります。

・バッフル板の裏側	・前側フットの裏側
	

・ブナ合板の塗装

ブナ合板の表面は比較的滑らかですが、少し荒い場合はサンドペーパーで整えて下さい。切断面と角部分はサンドペーパーで滑らかにしてください。１回目の塗料を塗った後は表面が少しざらつきますので、300 番程度のペーパーで滑らかにしてから２回目の塗料を塗ります。

・円筒部分の塗装

リアバッフル MDF の表面は滑らかですので、そのまま塗装します。切断面はサンドペーパーで滑らかにしてください。円筒紙管は表面が滑らかですので、そのまま塗装します。１ 回目の塗料を塗った後は表面が少しざらつきますので、300 番程度のペーパーで滑らかにしてから２回目の塗料を塗ります。

■組立時のご注意

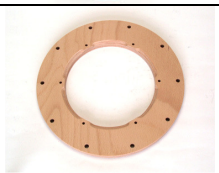
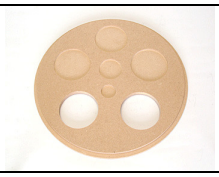
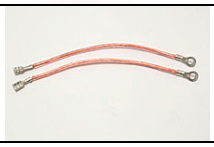
・ブナ合板や MDF の部品を扱う時は、角部分等が荒くなっている事がありますので、十分にご注意下さい。必要な場合はサンドペーパーなどで角を丸めて下さい。
・塗装をする時は換気にご注意下さい。
・ラッカー塗料やラッカーシンナーを使用する場合は十分火気にご注意下さい。

製造元

MIXEL **UNIQUE Design QUALITY Sound**

有限会社ミクセル
兵庫県西宮市堀切町 8-38-502　TEL 0798-34-2238

構成部品　１ペア＝２台分の部品が入っています。

番号	部品名称	数量	外観写真
1	メインバッフル板（ブナ合板）	2	
2	前側フット（ブナ合板）	2	
3	後側フット（ブナ合板）	2	
4	円筒紙管	2	
5	バッフル板（ブナ合板）	2	
6	リアバッフル板（MDF）円筒紙管に取り付け済み	2	
7	ターミナル（赤）	2	
8	ターミナル（黒）	2	
9	吸音材（大）	2	
10	吸音材（小）	2	
11	バスレフポート	4	
12	ケーブル（圧着端子＋ファストン端子付）	4	

番号	部品名称	数量	外観写真
13	鬼目ナット M8（前側フット用）	4	
14	鬼目ナット M5（バッフル板取付用）	20	
15	鬼目ナット M3（ユニット取付板用）	12	
16	六角ボルト M8（前側フット用）	4	
17	六角ボルト M5（バッフル板用）	20	
18	六角ボルト M3（ユニット取付用）	12	
19	六角レンチ M8 六角レンチ M5 六角レンチ M3	各1	

組み立て手順

ターミナルの取付

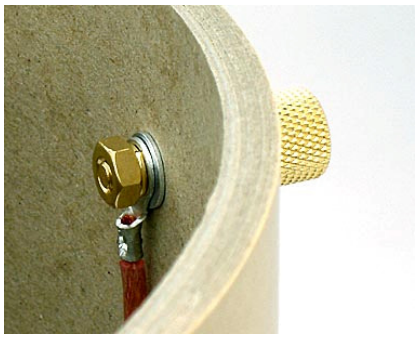
ターミナルにファストン端子の付いているケーブルをつなぐ作業です。
ターミナルのネジ部分を円筒紙管に差し込んでからアルミワッシャー、圧着端子、スプリングワッシャー、ナットの順番に装着します。ケーブルはバスレフポートの方向に向けておきます。スパナでナットを締め付けてください。あまり締め付けが強いと円筒紙管が変形することがありますので、ご注意ください。



取付完了写真



外側からの写真



内側からの写真



部品の並び順（内側→外側）

吸音材の取り付け

吸音材（大）の長い方を円周周りになるように円筒紙管の内面に、そしてリアバッフル面も隠れるように敷設します。バスレフポートの上に吸音材（小）を載せます。次の工程でバッフル板と接着しますので少しずらしておきます。ケーブル先端も接着時にはさむといけませんので、吸音材にめり込ませておきます。



円周方向に吸音材（大）を敷く

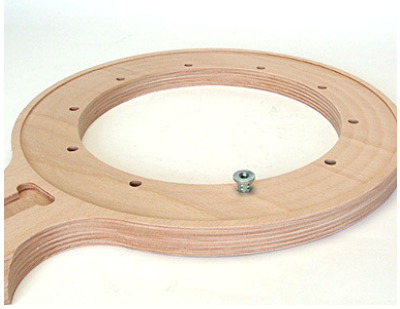


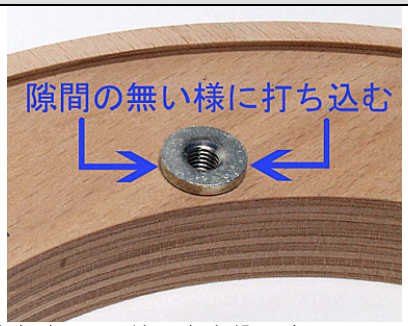
ポートの上に吸音材（小）を敷く



次工程接着のため 5cm 位ずらす。ファストン端子を吸音材にめり込ます

鬼目ナットの取り付け





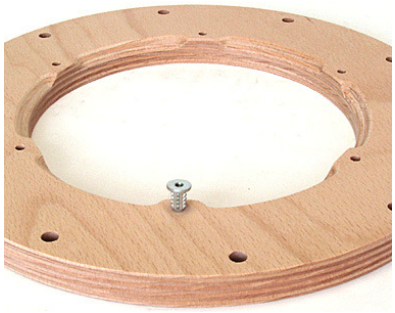
メインバッフル板に M5 鬼目ナット（各 10 個）をかなづちで打ち込みます。間隔の無い様に直角に打ち込みます。



（重要です！）鬼目ナットが正確に打ち込まれているか、バッフル板を M5 ボルトで取付けてチェックします。ボルトが入りにくい場合は鬼目ナットが正確に入っていませんのでかなづちで鬼目ナットを正確に打ち込んで下さい。



メインバッフルの下部に鬼目ナット M8（各２個）を打ち込みます。

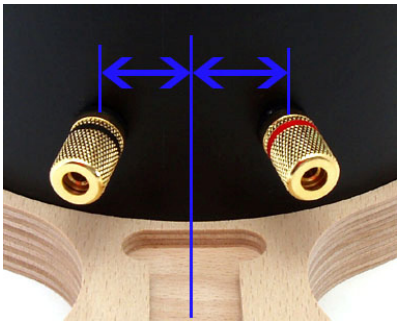


バッフル板のテーパーの付いている方に鬼目ナット M3（各６個）を打ち込みます

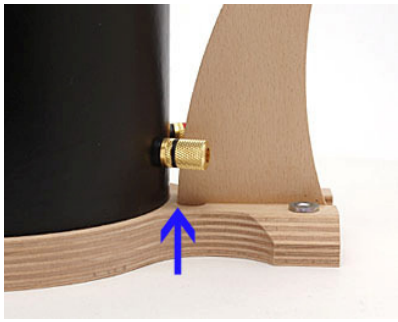
組立



メインバッフル板を平らな所に置き、円筒部分に木工用ボンドを十分に塗って接着して下さい。本などを沢山載せて下さい（10ｋｇ以上載せるのがベター）。はみ出た接着剤は濡れた雑巾で拭き取ります。ターミナルの位置にご注意ください（右上写真参照）



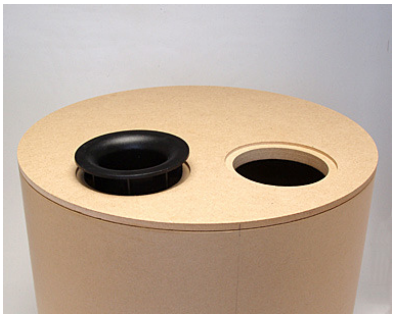
後側フット用の溝とターミナルを目安にして、バッフル板の中央に来るように円筒の位置を調節します。



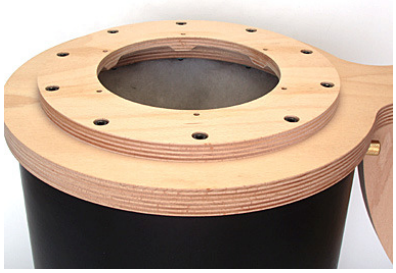
後側フットを接着します。接着剤を十分に塗って確実に接着します。上のようにフットの上端と溝のエンドを合わします。この状態で完全に接着するまで待ちます。



フット前を M8 六角ボルトで取り付けます。



バスレフポートを取り付けます。入りにくい場合は、ボートの接触部分を少し削ってください。



バッフル板を M5 六角ボルトで取り付けます。



ターミナルの赤側をスピーカープラスに、ターミナルの黒側をスピーカーマイナスをつなぎます。スピーカーを M3 六角ボルトで固定します



完成です。

★アフターケア

バスレフポートの中に吸音材を入れますと低音の量感の調節ができます。背面の壁との距離がとれない場合またはお好みで調整ください。吸音材を少し入れるだけでも変わる場合があります。

完成後しばらく経ちますと振動や木材が乾燥して板厚が薄くなるなどの原因でボルトが緩んできます。その時はボルトを増し締めしてください。特にバッフル板とメインバッフル板を接合している M5 ボルト（10 本）、メインバッフル板と前側フットを接合している M8 ボルト（2 本）は緩んできますと音質を損なう場合がありますのでご注意下さい。前側フットは木工用ボンドなどで完全に固定しても良いと思います。